日本映画放送株式会社　第67番組審議会議事録

１．開催年月日：平成31年1月15日（火）15時～16時

２．開催場所：東京都千代田区有楽町１－１－3　東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社　ボーディングルーム

３．委員の出席：委員総数　9名　／　出席委員数　8名
出席委員(順不同、敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・鳥居 美砂・
田保橋 淳・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎
欠席委員(敬称略)　　　　：砂川 浩慶

放送事業者側出席者：	代表取締役社長	杉田 成道
	常務取締役	佐藤 信彦
	執行役員編成制作局長	宮川 朋之
	編成制作部長	小川 英洋
	編成制作部	三宅　 歩
	編成制作部	足立 一樹
	編成制作部	小林 良弘
	番審担当	堤　 靖芳
		清水　 明(記)

４．議題（１）審議事項
日本映画専門チャンネル「日曜邦画劇場『八甲田山』」について
（２）報告事項
時代劇専門チャンネル「小河ドラマ 龍馬がくる」について

５．議題（１）概容
2001年7月に始まった日本映画専門チャンネルの看板番組「日曜邦画劇場」が、18年12月2日の放送で888回を迎えた。これを記念し、11月から3か月連続企画として名優･高倉健主演作を最高画質で放送し、第888回にあたる12月2日の放送回は、『八甲田山』〈4Kデジタルリマスター版〉をオンエアした。本編終了後には、9月4日にTOHOシネマズ日比谷の特別上映の際に収録した、出演の北大路欣也と撮影監督の木村大作が、主演･高倉健との思い出や過酷な撮影現場について語り合った対談の模様を放送した。
【審議ポイント】
■本編前後に放送した第888回記念番組は、視聴者に映画をより楽しんでもらえる内容となっているか。
■インタビュアーの質問やトーク内容は適切だったか。

６．議題（１）審議内容

・当事者ならではのエピソード満載で堪能した。プロの凄さを実感したし、リマスターの意義を感じた。映画はこのような取り組みが行われているが、テレビ番組では貴重な過去の映像が廃棄されることも多いと関係者が嘆いている。業界全体で取り組んでほしい。
・インタビュアーの軽部が作品をしっかり勉強しているのが好印象。興味深いエピソードが尽きず、出演俳優たちの覚悟やスピリットが感じられた。残念なのは森谷司郎監督が他界しており、話が聞けなかったことと、対談で監督について触れられなかったこと。木村は今回の4Kリマスターで「オリジナルを超えたい」と言っていたが、それは疑問だ。見やすくすることが本当に良いことか。基本はオリジナルに近づけることだと思う。
・本編後に解説や対談を放送したのでは、視聴者は映画を見終わってすぐにチャンネルを替えてしまい、見ないのではないか。前解説で撮影秘話や時代背景などを紹介した方が、本編の理解も深くなるし、熱心に観賞できるかもしれない。しかし、対談は充実した内容で聞きごたえがあった。私自身も解説を聞いてから本編をもう一度見直したくなった。
・前解説で豪華スターの共演を劇中の写真で説明してくれたのは役に立った。この悲劇が第二次世界大戦下のインパール作戦などに繋がっている。語るべき、考えるべきことの多い内容なので後解説に期待したが、作品の余韻を受け止めていない。トークの雰囲気が明るく、番組宣伝として放送した方が向いていたのではないか。
・名作だし、解説の雪中での苦労話も面白いし、雪景色の中でこれだけの撮影をした木村撮影監督の実力はよくわかる。一方で名作であればこそ、戦前の日本軍は命令系統がしっかりしていて立派であった、と誤解されてしまう危惧を覚えた。
・前後の解説を見てから本編を見たので堪能できたが、前解説にもう一工夫ほしかった。一方、日本映画専門チャンネル主導で名作の4Kデジタルリマスターを手掛けたことは意義深い。顔が判別でき、話を追いやすくなった半面、輪郭がはっきりし過ぎる気がした。
・私自身も冬の八甲田山へ撮影に行った経験があるが、見た目は美しいが厳しい山だと映画を見て思い出された。デジタル化すると、レンズの被写界深度の違いなど様々な問題があり、デジタイズでオリジナルを100%再現するのは難しい。
・『八甲田山』に匹敵する大作はもうできないだろう。映画界と映画に力があった時代の作品。解説には今日の日本に対する視点がない。例えば、原作者･新田次郎の子息の藤原正彦が彼の視点で、映画と今の日本を関連づけて語る、といった企画を見たい。
・撮影監督の役割は視聴者から分かりにくいが、その仕事ぶりを初めて知り、こんなに凄いことをしているのかと驚いた。4Kデジタル化は良し悪しあるだろうが、リマスターで素晴らしいコンテンツを美しい映像で楽しめるのなら良いのではないか。『八甲田山』でも重苦しい雪のシーンが続いた後に、パッとねぶたの光景に切り替わった時のコントラストが素晴らしく、4Kリマスターの可能性を感じた。

各委員からの発言に対して、当社からの説明･回答は以下の通りであった。

・4Kデジタルリマスターは半年間作業した。フィルムをクリーニングするなどの手作業か

らデジタルリマスター作業に移ると、撮影当時に限られた機材で妥協せざるをえなかった木村が画質にこだわり、スタジオ編集作業に1ヶ月半ほども時間費やした。特別試写会後のトークショーには森谷監督のご遺族もいらっしゃったので、木村は監督について話しにくかったかもしれない。

・4Kリマスター版でエッジが気になるとの指摘があったが、ピュア4Kならば問題はないが、フィルムをテレシネすると、一般的なテレビでは映像上どうしてもチカチカしてしまう。

７．議題（２）報告事項

時代劇専門チャンネル「小河ドラマ　龍馬がくる」について

マイナーで笑えるエピソードだけで織田信長を描いた「小河ドラマ 織田信長」を2017年3月に放送したが、マニアックなファンの間で熱狂的人気を博したので、第2弾「小河ドラマ 龍馬がくる」を時代劇専門チャンネルと関西テレビで製作した。2018年11月から関西テレビの深夜枠で放送したところ、見逃し配信も好調で、12月15日からは劇場で2週間特別レイトショーをした。当チャンネルでは12月30日に全4話一挙放送したが、現在全国15局にセールスが決定するなど、予想以上に大きな反響を得ている。

８．連絡事項

次回番組審議委員会は、3月26日(火)15時より開催。